

## (9) 四国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

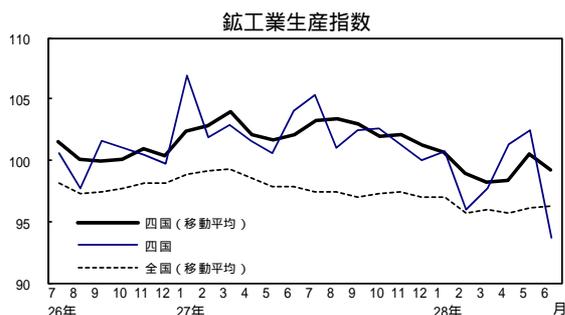
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 28 年 5 月)	今回 (平成 28 年 8 月)	
住宅建設	増加	大幅に増加	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は弱含んでいる。

4～6月期には、化学は、医薬品の生産計画上的変動などから増加した。電気機械は、蓄電池の生産設備の改造等から減少した。食料品は、レトルト食品の在庫調整等から減少した。はん用・生産用機械は、納期のタイミングなどから増加した。非鉄金属は、電気金やニッケル地金で定期修理があったことなどから減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
化学	22.9	5.9	11.1	36.0	5.6	30.1
電気機械	15.8	5.0	7.3	11.8	0.5	1.8
食料品	10.5	7.2	3.2	3.6	0.4	1.5
はん用・生産用機械	10.0	17.7	10.7	10.7	1.6	17.9
非鉄金属	8.0	1.8	2.7	4.8	1.6	13.9
鉱工業	100.0	3.1	1.0	3.6	1.2	8.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

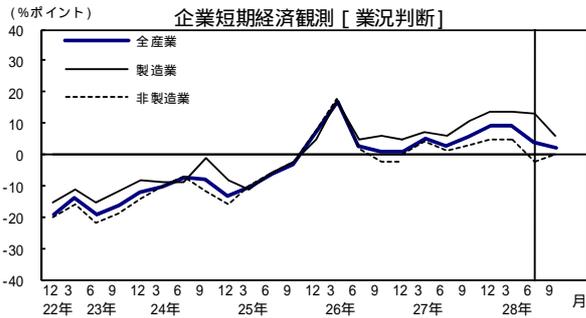
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

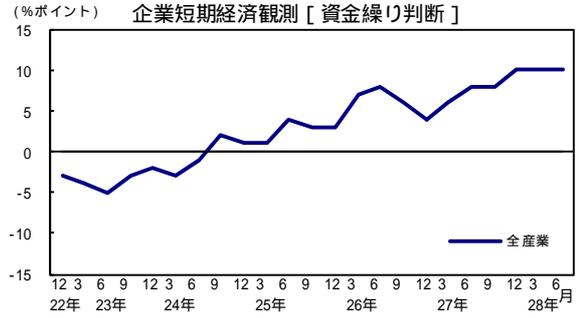
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

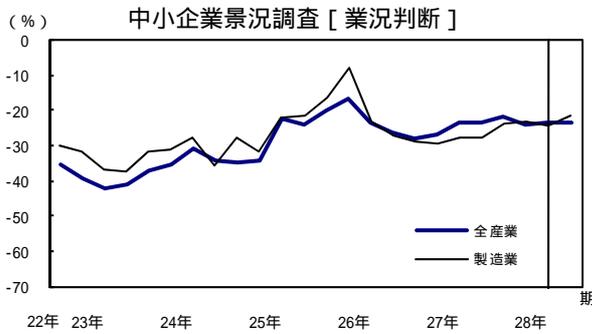
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年9月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

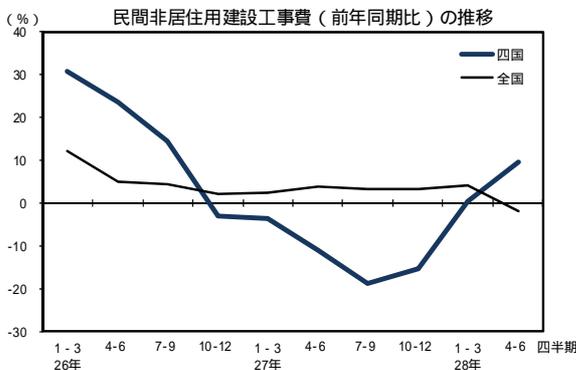


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「公共事業が前倒し発注されている。自治体事業には偏りがあるため、業者によって良し悪しはあるものの、総じて大きな落ち込みもなく、想定外の追加発注もない。しかし、大手の受注量が増えており、地方の中小企業は苦戦している(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度見通
全産業	6.7( 1.1)	0.9(3.7)
製造業	2.5(0.5)	0.2(5.6)
非製造業	13.3( 3.3)	2.5(1.1)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

(9) 四国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.8%減、5月は同0.1%減、6月は同0.5%増となった。

百貨店・スーパー販売額

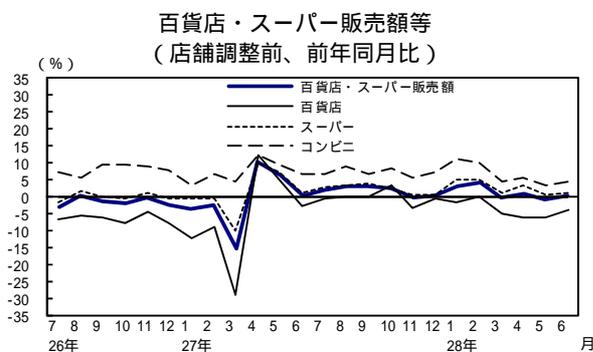
百貨店は、4月は、衣料品は初夏物衣料の動きが鈍く、身の回り品は靴の動きが低調で、飲食料品も集客が伸び悩んだこと等から前年を下回った。5月は、衣料品は初夏物衣料の動きが鈍く、身の回り品はサンダルなど夏物商材の動きが低調で、飲食料品も伸び悩んだこと等から前年を下回った。6月は、飲食料品は堅調であったが、衣料品や身の回り品が引き続き動きが鈍く、宝飾品や美術品も低調であったこと等から前年を下回った。

スーパーは、肉類の相場高や総菜など飲食料品が好調であったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、46.6となり前月より4.8ポイント上昇した。

「前年より来客数が改善し、売上も伸びているのは猛暑の影響で、一時的なものだ。景気回復ではないと考える (コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

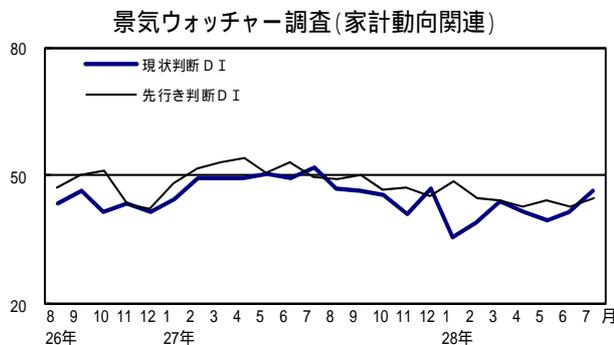
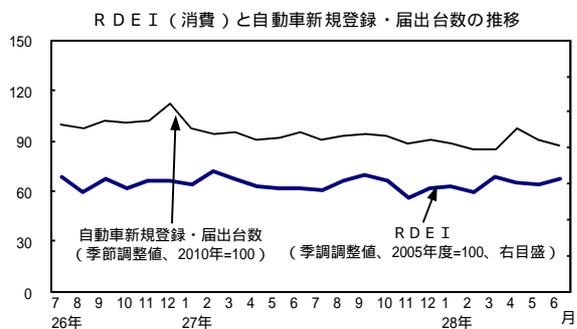


	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.5	0.8	0.1	0.5
百貨店・スーパー (*2)	0.3	1.2	0.5	0.3
百貨店 (*2)	5.4	6.2	6.1	3.8
スーパー (*2)	1.8	3.2	0.9	1.4
コンビニ (*2)	4.5	5.5	3.3	4.8
乗用車 (*3)	2.5	5.9	1.1	9.6
(季節調整値) (*3)	6.2	14.2	7.0	4.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

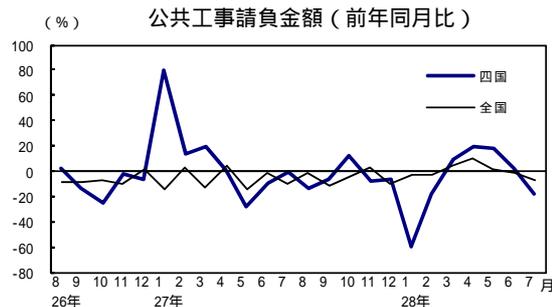
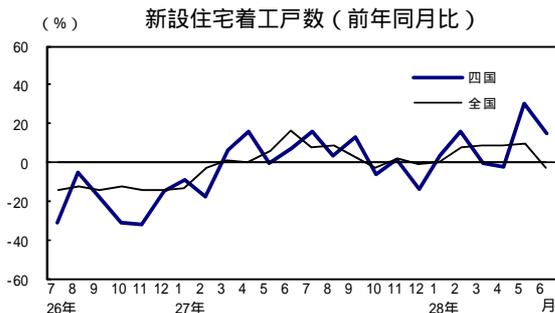
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%) )



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度と同水準となっている。

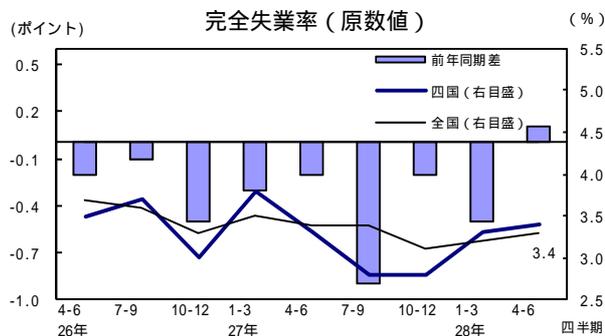
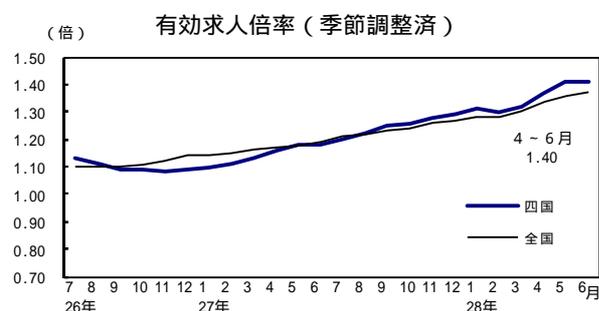


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

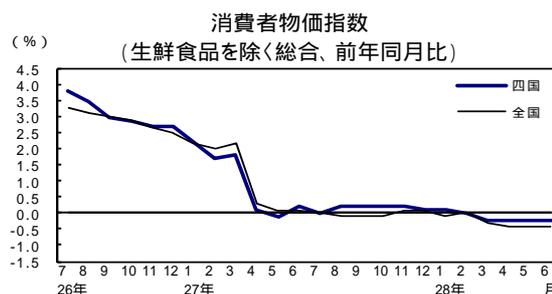
「中小企業の今年度採用はほぼ終了している。採用数は前年並みか、微増という企業が多い。ただ、零細企業の多くは採用できず、引き続き採用活動を行う企業が多い (民間職業紹介機関) などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年7-9月	10-12月	28年1-3月	4-6月	28年7月
倒産件数	36	47	44	37	11
(前年比)	25.0	6.8	22.8	7.5	21.4
負債総額	80	83	118	102	10
(前年比)	49.7	41.4	16.4	69.4	74.1



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ギフトカタログ業者向けの売上が減ってきているのは、インターネットの普及が要因であると思われる。当社の販売先の大半が小売店なので、小売店への直販比率を上げていきたい (繊維工業)。

<先行き>

・9月に待望の新型車が発売されるため、軽自動車市場に活気 (購買意欲) が出ることを期待している (乗用車販売店)。

